市社会福祉協議会窓口で１個300円で販売されている
アマビエキーホルダー＝豊明市の市総合福祉会館で

豊明市社会福祉協議会は今月、二百円を入れてガチャッとレバーを回すと、新型コロナウイルスの「お守り」が出てくるカプセルトイを、市総合福祉会館（同市新田町）に設置した。「疫病退散」の文字と共に描かれているのは、豊明高イラストレーション部の部員たちがデザインしたアマビエ。収益は、同社協が行う「子ども食堂」の運営費などに充てられる。（平木友見子）

アマビエ キーホルダーに

豊明高生徒デザイン 市社協が販売

子ども食堂運営費などに充当

同部の部員たちは先月の休校期間中、疫病をはらうとされる妖怪アマビエのイラストを描き、登校日の二日間、校舎昇降口で約三十点を展示した。その絵を見た印刷会社ジーピーセンター（同市栄町）が、自社技術を生かした社会貢献活動に活用したいと、同高に製品化を提案。カプセルトイ用のキーホルダー十一種類を製作した。二百個をほぼ原価で譲り受けた同社協が、福祉会館にカプセルトイを設置した。

同高では今月十一、十二日、「お試し」としてカプセルトイを図書室前に設置。生徒や教員がこぞって購入し、約百個が売れたという。同部の寺島達也教諭は「校内でも評判で、一人で四、五回、回す生徒もいた」と話す。同部員で二年の鈴木心彩紀（みさき）さん（一七）は「自分の作品がグッズになるなんて貴重な体験」と笑顔だ。

また同社は、カプセルトイ用より一回り大きな別の製品のアマビエキーホルダーも作り、二十種類約五百個を同社協へ寄贈。社協は、福祉会館の窓口で一個三百円で販売し、収益は同じく社会福祉事業に充てる。

同社協の原田一也事務局長は「すごくありがたい話。世の中の役に立ちたいという生徒たちの気持ちをくんで、収益金を事業に大切に使っていきたい」と話していた。

地元の印刷会社 福祉施設に贈呈

ジーピーセンターは、一回り大きなアマビエキーホルダーを、豊明市内の福祉施設へのプレゼントとして活用するほか、同市にも提供している。同市は、市役所に寄付を届けた人にお礼として渡すほか、ふるさと納税返礼品にも追加する予定だという。

豊明高イラストレーション部の部員二人と同社の担当者らは十二日、同市沓掛町の児童デイサービス「ふぁーもにー」を訪れ、キーホルダー約六十個を寄贈した。

利用者の小学生から高校生五人に一人ずつ手渡した同部で二年の近藤千尋さん（一七）は「最初はただイラストを描くだけだと思っていたので、こんなふうに喜んでもらえてうれしいです」と話していた。

アマビエのキーホルダーを利用者に渡す近藤さん㊧と鈴木さん＝豊明市沓掛町のふぁーもにーで